

第6学年2組 学級活動（1）指導案

日 時 令和7年〇月〇日（〇）第〇校時

場 所 6年〇組教室

指導者 〇〇 〇〇

1 議題「6-〇プロジェクト！『〇〇っ子 仲良し大作戦』をしよう」

ア 学級や学校における生活上の諸問題の解決

2 議題について

（1）児童の実態

本学級は素直で優しい児童が多く、男女を問わず協力して活動に取り組むことができる。委員会活動や行事にも前向きに参加し、最高学年としての自覚を高めながら、自分の役割に責任をもって行動する姿が多く見られるようになってきた。

学級会では、1学期に「6年〇組のクラス目標を決めよう」「バスレクを決めよう」「6-〇サマーフェスティバルをしよう」などの議題で話し合いを行った。司会グループを中心に、心配な意見に対して複数の児童が解決策を考えたり、それぞれの意見の特徴やよさに着目して、意見を合体したりする等、少数意見を大切にしながら話し合うことができるようになってきている。こうした実践を通して、自分たちの手でよりよい学級をつくらうとする気持ちが高まってきている。特に「6-〇サマーフェスティバルをしよう」では、学級における生活上の問題を解決するために、問題意識を共有したり、共に解決策を探ったりする等、試行錯誤を繰り返しながら自主的に問題解決に取り組むことができた。その結果、やりたいことを実現する大変さと楽しさを味わうとともに、大きな達成感を得ることができた。

一方、話し合いのときに一部の児童の意見に偏り、最後まで自分の考えを伝えられない児童がいることが課題である。今後は、友達の意見に反応を示したり、それをふまえて自分の考えを話したりする経験を増やし、みんなで納得できる話し合いを進めていきたい。

（2）議題選定の理由

本議題『6-〇プロジェクト！「〇〇っ子 仲良し大作戦」をしよう』は、「読書マラソンをクラスみんなで達成させよう」や「6-〇祭りをしよう」という候補の中から、6年生も残り半分となり、最高学年として下学年との関わりをもっと増やしたいという児童の思いから選定された。6年生が始まった4・5月には1年生の朝の支度や掃除のお手伝いをしたり、休み時間に一緒に遊んだり関わりがたくさんあった。

しかし、お手伝いをするという役割がなくなった現在、1年生をはじめとする下学年との関わりがあまり多くないのが現状である。アンケートを行うと、下学年ともっと関わりたいと考えている児童が80%おり、その理由として、「もっと関わりを増やすと、なかよしタイムなどでも話しやすくなると思うから」や「昨年度の6年生は、下学年と積極的に関わっていて自分たちもそんな6年生になりたいと思ったから」などがあった。また、「自分たちと下学年の関わりだけでなく、他学年同士の関わりをもっと増やしたい」と考える児童も多くいた。そこで、今まで自分たちが経験してきたことをもとに、他学年と交流できる内容や工夫を考え、実践することで、他学年との交流する楽しさや最高学年として学校を動かす達成感を味わうことができると考え、本議題を設定した。

3 研究課題との関わり

(1) 研究課題

「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善

(2) 研究の視点

主体的・対話的で深い学びを実現する授業づくり
～特別活動の「見方・考え方」を働かせた話し合い活動の充実～

(3) 研究課題解決のための仮説と手立て

仮説Ⅰ 自分達が抱えている学級の諸問題に気づき、問題解決に正面から向き合うことができれば、学級を形成する一員として、生活の充実向上のために進んで貢献しようとする態度や行動を身に付けることができる。

手立て① 事前の活動において、子供たち自身が問題の背景を探ったり、共有したりすることで問題を自分事に捉え、解決への必要感をもてるようにする。

手立て② 合意の決め手となった理由を視覚化したり言語化したりすることで、本実践の価値や目的を明確にし、実践における行為・行動につなげる。

仮説Ⅱ 意見の背景にある仲間の考えを理解したり、多様な意見のよさを生かしたりしながら合意形成し、実践することで、互いを尊重する温かい人間関係が構築され、協働的な学びの基盤となる実践的な態度を身に付けることができる。

手立て① 話し合いの柱ごとに合意の方向性を示したり、話し合う内容を焦点化したりして、子供たちが見通しをもって話し合えるようにする。

手立て② それぞれの比べ合う場面において、意見を分類し、操作することによって子供たちの思考を深め、子供の納得解による合意形成を図る。

4 第5学年及び第6学年の評価規準

よりよい生活を築くための知識・技能	集団や社会の形成者としての思考・判断・表現	主体的に生活や人間関係をよりよくしようとする態度
みんなで楽しく豊かな学級や学校の生活をつくるために他者と協働して取り組むことの意義を理解している。 合意形成の手順や深まりのある話し合いの進め方を理解し、活動の方法を身に付けている。	楽しく豊かな学級や学校の生活をつくるために、問題を発見し、解決方法について多様な意見のよさを生かして合意形成を図り、信頼し支え合って実践している。	楽しく豊かな学級や学校の生活をつくるために、見通しをもった振り返りや自己のよさを発揮し、役割や責任を果たして集団活動に取り組もうとしている。

5 事前の活動

日時	児童の活動 ●全員 ○計画委員 ・個人もしくは複数人	指導上の留意点 () 仮説及び手立て	◎目指す児童の姿 【観点】(評価方法)
○月○日 (○) 業間休み	・「他の学年と交流をしたい」という思いが寄せられる。		
○月○日 (○) 業間休み	・「他の学年と交流をしたい」と感じた動機や場面を話し合う。 ・学級の現状を把握できるアンケートを作成する。	・児童がどんな部分で問題意識をもっているのかを話しながら明確にしていく。 (仮説Ⅰ 手立て①)	
○月○日 (○) 朝の会	●「他学年との交流について」のアンケートに答える。		
○月○日 (○) 朝の会	●アンケート結果を知り、どんな解決策があるか考える。	・アンケートで学級の実態を知り、提案者だけでなく、多くの児童が同じ思いをしていることに気づかせ、話合いの必要感をもたせる。 ・アンケート結果を話合いに反映するように助言する。(仮説Ⅰ 手立て①)	
○月○日 (○) 業間休み	○議題を選定する。	・各提案の扱いを明らかにし、提案者に伝えられるようにする。	【主体的に取り組む態度】 ◎よりよい学級づくりにはどの議題がふさわしいか積極的に考えようとしている。 (観察)
○月○日 (○) 帰りの会	○議題を学級全体に提案して、決定する。 ●議題を決定する。	・選定した議題について全員に知らせ、承認を得ることを確認する。 ・計画委員会の提案を基に全員で決定する。	
○月○日 (○) 業間休み	○提案理由を提案者と練り上げる。 ○活動計画と学級会ノートを作成する。 (話合いのめあて、柱、役割、決まっていること)	・皆が納得し、共有できるような提案理由になるように提案者と計画委員に助言する。 ・実態をふまえ、日時や場所などの条件を教師が設定する。 ・話合いの柱を決める際に	【知識・技能】 ◎計画委員会の役割、話合いの進行の仕方等を理解している。

		は、全員で議論すべきことは何かを考えられるよう助言する。	(活動計画・観察)
○月○日(○) 5時間目	●学級会ノートに自分の考えを記入する。	・提案理由や決まっていることが共通理解できるよう必要に応じて助言する。	【思考・判断・表現】 ◎提案理由や話合いのめあてに沿った意見を考えて、学級会ノートに書いている。 (ノート)
○月○日(○) 業間休み	○全員の学級会ノートに目を通し、書かれた意見を整理する。 ○短冊を作成する。	・学級会ノートに目を通し、出された意見から話合いの見通しがもてるようにする。 ・出された意見を短冊に書き、ミニホワイトボードに掲示して、互いの意見に関心をもたせる。	
○月○日(○) 朝の会	●短冊を学級に掲示し、疑問点や質問を確認する。		
○月○日(○) 業間休み	○話合いの準備をする。	・それぞれの役割で自分のめあてが言えるように指導する。 ・話合いのシミュレーションを行い、話合い活動全体の見通しをもつことができるようにする。	【知識・技能】 ◎自分の役割を考えながら話合いの準備をしている。 (観察)
○月○日(○) 朝の会	○教師からの言葉等が書かれた学級会ノートを受け取る。	・学級会ノートに励ましの言葉等を記入し、話合いの意欲を高める。	

6 本時の展開

(1) 本時のねらい

「学校全体が関わる取組」という意識を一人一人がもち、互いの意見を尊重し合いながら、他学年と交流できる内容や工夫について、合意形成できるようにする。

(2) 児童の活動計画

当日配布

(3) 教師の指導計画

活動の計画	指導上の留意点	◎目指す児童(生徒)の姿 【観点】(評価方法)
1 はじめの言葉		

2 計画委員の自己紹介	<ul style="list-style-type: none"> ・自分のめあてが言えるように指導し、役割への意欲や自信を高める。 	
3 議題の確認	6-〇プロジェクト! 「〇〇っ子 仲良し大作戦」をしよう	
4 提案理由やめあての確認	<ul style="list-style-type: none"> ・提案者による説明では、文章をただ読むだけでなく、提案者の思いや願いをより詳しく取り入れ、提案理由が浸透できるようにする。 	
5 決まっていることの確認	<ul style="list-style-type: none"> ・あらかじめ教師が設定しておく。 ・決まっていることを確認し、児童全体が共通理解した上で話し合いが行われるようにする。 	
<ul style="list-style-type: none"> ・〇月〇日(〇), 〇日(〇)の昼休み、〇日(〇), 〇日(〇)の業間休み ・強制参加にはしない ・〇〇小ならでのことを入れる。 		
6 先生の話	<ul style="list-style-type: none"> ・提案理由の意識付けを行うとともに、話し合いの視点、キーワードを確認する。 ・カレンダーを用いて準備に使える時間を伝え、事後の活動に見通しを持たせる。 	
7 話し合い 【パターン1】 柱1 何をするか 柱2 工夫 柱3 役割分担 【パターン2】 柱1 工夫 柱2 役割分担	<ul style="list-style-type: none"> ・実践を見通して、話し合いができるようにする。 ・柱ごとのめあてを話し合う前に全体で確認するよう助言しておく。 (仮説Ⅱ 手立て①) ・出された意見を分類整理して掲示することを助言しておく。 (仮説Ⅱ 手立て②) ・話の方向がそれた時や自発的活動の範囲を超えそうなときは、積極的に助言する。 ・自分だけでなく学級全体、学校全体を意識した意見と理由を考えるように助言する。 ・合意する際は「なぜ、それに決まったのか」を明確にする。 (仮説Ⅰ 手立て②) 	【思考・判断・表現】 ◎提案理由を踏まえて、理由を明確にして自分の考えを発言している。(観察・ノート) 【知識・技能】 ◎これまでの話し合いの経験を生かし、合意形成の手順や出された意見をさらに深めるための話し合いの方法を理解している。(観察)
8 決まったことの発表	<ul style="list-style-type: none"> ・ノート記録の児童が合意の決め手も含 	

9 話合いの振り返り	めて発表できるよう、事前に指導をしておく。	
10 先生の話	・よかった点や課題について自己評価し、友達のよかった点などについても相互評価できるように助言する。	
11 終わりの言葉	・今までよりよくなったところを称賛し、今後の課題、計画委員へのねぎらいを簡潔に述べるとともに、実践に向けた意欲付けについて特に重点的に伝える。	
	・板書を写真に撮り、掲示物を作成する準備をする。	

7 事後の活動

日時	児童の活動	指導上の留意点	◎目指す児童の姿 【観点】(評価方法)
○月○日(○)～	・係ごとに準備をする。 ・帰りの会やクラスルームなどで係ごとに適宜経過報告をする。	・係は必ず複数人で担当し、協力して活動できるようにし、活動の状況を途中で報告し合いながら活動意欲の継続化を図る。	【主体的に取り組む態度】 ◎合意形成したことをもとにみんなで協力し、進んで集会の準備に取り組んでいる。 (観察)
○月○日(○) ～○日(○) ・業間休み ・昼休み	・6-○プロジェクト!「○○っ子 仲よし大作戦」 ・実践後、ふりかえりを記入する。	・実践に対する価値づけを具体的な場面を交えながら行う。 ・活動を通して学んだことや活動前と活動後の変化などふりかえりの視点を提示する。	【思考・判断・表現】 ◎交流会の目的を考え、めあてを意識しながら友達と協力して実践している。 (観察・学級会ノート)
○月○日(○)	・学級の歩みに掲示する。		

8 備考 在籍児童数：○人